

決算の概要

平成 17 年度の決算にあたって

平成 17 年度は、民間企業の好調による国経済のゆるやかな回復基調を受けて、市税収入は安定しているものの、国の構造改革の影響により臨時財政対策債を含めた地方交付税が大幅な減収となったことや退職手当組合負担金の増加などから、一般財源が減少し大変厳しい財政運営となった。

そのような状況に対応するため組織、機構や人件費抑制を含めた市行政構造全般の見直しにより経費の節減に努めつつ、合併建設計画の目標である「水辺などの自然を生かし、さまざまなふれあいのある、住民が豊かさを実感できるまち」の実現にむけ、着実に諸施策を展開してまいりました。

特に、教育環境の充実を図るため潮来第二中学校建設や市立図書館整備を実施するとともに、福祉部門に子育て推進室を設け、就学前児童の医療費助成や学童保育、子育て広場の実施など子育て支援の更なる充実を図るなど、従来からの道路や下水道などの社会基盤整備に加え、多面的な行政サービスの向上に努めています。

決算収支の状況

◇ 一般会計では、歳入総額 11,954,804 千円、歳出総額 11,669,826 千円で 284,978 千円の黒字となっています。（黒字のうち、24,112 千円は明許・事故繰越等のため翌年度へ繰り越すべき財源となっているため、実質収支は、260,866 千円となります。）

単年度収支（実質収支から前年度の実質収支を差し引いた額）では、97,805 千円の赤字となっています。

歳入の主な状況では、市税が前年度比 0.5%増で構成比 25.6%となっています。これは、個人所得割と固定資産（家屋）の増によるものです。また、地方交付税等では、地方交付税が前年度比 0.7%減で構成比 28.4%、臨時財政対策債が前年度比 23.0%減と大幅に減少しており、財政悪化の主要因となっています。

目的別歳出の主な状況では、構成比が民生費（23.3%）、教育費（20.7%）、公債費（13.7%）、総務費（11.1%）、土木費（10.0%）の順になっており、これらが全体の大半をしめています。

これらの項目の前年度比をみると、民生費（4.3%増）、教育費（34.1%増）、公債費（29.9%減）、総務費（5.9%増）、土木費（13.9%減）となっており、図書館建設費増による教育費の増や下水道繰出金の減による土木費の減少が特徴的です。また、公債費が昨年度に比べ、大幅な減となっているのは、平成 16 年度減税補てん債の元金一括償還（512,600 千円）分が完了し、通年ベースに戻ったことによるものです。前年度に比し、大幅に減少しているものの、多額の地方債残高があるため、公債費は当分の間、高い構成比となる見込みです。

また、性質別歳出の状況では、おおむね構成比が人件費（21.9%）、物件費（16.2%）、普通建設事業費（13.8%）、公債費（13.7%）、扶助費（13.3%）の順になっており、義務的経費（人件費・公債費・扶助費）が全体の 48.9%を占めています。

財政構造を示す各指数は、経常収支比率が 92.1%（前年度数値 90.0%）、公債費比率 17.3%（前年度数値 19.2%）、起債制限比率 14.1%（前年度数値 13.8%）と高い水準を示しており、臨時的な支出に対する柔軟性が薄れ、財政構造が硬直化していることを示唆しています。

◇ 国民健康保険特別会計では、歳入総額 3,236,154 千円、歳出総額 3,135,714 千円で、実質収支額は 100,440 千円となりました。

歳入予算現額 3,320,940 千円に対し、収入済額 3,236,154 千円で 97.4%の収入率であり、歳出予算現額 3,320,940 千円に対し、支出済額 3,135,714 千円で 94.4%の執行率となりました。

◇ 老人保健特別会計では、歳入総額 2,372,081 千円、歳出総額 2,341,295 千円で実質収支額は、30,786 千円となりました。

受給者数は前年度に比べて 5.8%減少していますが、一人あたりの年間医療費は平成 16 年度が約 62 万円に対し、17 年度は約 72 万円で前年度に比べて 16%増加しています。

人口の高齢化・医療技術の進歩に伴い医療費が増加傾向にある中、お年寄りの医療費負担の増加が懸案となっています。医療費負担の増加を防ぐためにも、一人ひとりが健康管理に関心をもっていただきたいと思います。

◇ 下水道事業特別会計では、霞ヶ浦水郷流域関連公共下水道事業として、大洲・小泉・新宮・日の出・永山地区の面整備を行い、今年度全体では 8.01ha の供用開始区域の拡大を図ることができました。

事業費については、各施設の維持管理費等の経費抑制に努めている中、歳入総額 1,445,502 千円、歳出総額は 1,436,757 千円で 8,745 千円の黒字となりました。（黒字のうち、30 千円は繰越明許のため翌年度へ繰り越すべき財源となっているため、実質収支は、8,715 千円となります。）

◇ 農業集落排水事業特別会計では、歳入総額 52,848 千円、歳出総額 50,418 千円で、実質収支額は 2,430 千円となりました。供用開始後 9 年目を迎え、処理場及び中継ポンプ施設の適正かつ安定した運転管理・維持管理に努めました。また、水洗化の加入促進を図りました。

◇ 平成 17 年度介護保険特別会計では、歳入合計 1,147,531 千円、歳出合計 1,139,857 千円、実質収支は、7,674 千円となりました。

歳入予算現額 1,167,470 千円に対し、収入済額 1,147,531 千円で 98.3%の収入率であり、歳出予算現額 1,167,470 千円に対し、支出済額 1,139,857 千円で 97.6%の執行率となりました。

◇ 墓地事業特別会計については、第 1 種墓地 14 基、第 2 種墓地 20 基を公募し抽選を行った結果、第 1 種墓地 14 基、第 2 種墓地 4 基の使用申込みとなりました。

◇ 潮来市行方市公平委員会特別会計では、協議の上、平成 18 年度から特別会計を廃止し市単独の公平委員会を設置することとし、行方市への返還金は 238 千円となりました。

以上のとおり、決算上の特徴点について申し上げるとともに、「各部門の主要な施策の成果と予算執行状況」についてご報告申し上げます。関係各位の率直なご意見をいただき、次年度以降の行財政運営に反映させるよう努力するとともに、今後とも市民の皆様から親しみや誇りの持てるまちを築くため精一杯努力して参ります。